



JPCA

日本包装コンサルタント協会

[本部]

〒104 東京都中央区築地 4-1-1 東劇ビル
(社)日本包装技術協会 内

TEL 03-3543-1189 FAX 03-3543-8970

[事務局]

〒214-0014 川崎市多摩区登戸1604番地
エスカレントII 205号
本石包装専士事務所 内

TEL/FAX 044-934-9341

会報 No. 17
2001年(平成13年)3月

発行者 中山 秀夫

編集者 池田 得三

目次

ご挨拶	会長 中山 秀夫	1
活動状況		
本部	本部事務局長 本石 靖夫	1
関西支部	関西事務局長 塩田 利一	2
新年会に思う	副会長 有光 茂	3
機能性包装容器の開発を目指して	新会員 伊藤 荘司	4
環境問題への対応	新会員 坂本 善弘	5
「日々新たなり」を念頭に信頼される コンサルタントを目指して	新会員 小山 武夫	6
広報担当者からのお知らせとお願い	広報担当 池田 得三	7
編集後記	同上 池田 得三	7

環境と経済の相克する状態を脱して、生産や消費といった経済活動のあらゆる面で、つねに環境と資源への制約に対応が図られることこそ、新しい変革が期待される21世紀のアジェンダであり、持続的成長を遂げる循環型経済システムのコンセプトでもあろう。

あらゆる面における資源・エネルギーの利用効率を最大化することと、経済活動に伴う廃棄物を抑制し、二酸化炭素、ダイオキシンなど有害ガスの環境負荷物質の生態系への排出を最小化することが求められていることは周知のとおりあります。

そのために資源・エネルギーの利用に当たっての無駄を徹底的に省くとともに、再生、再利用を可能な限り高めることが必要であり、包装パラダイムにおいて全く同じことがいえる。生産者と消費者が主体的な役割を果たすことで、環境対応・資源対応にさらに踏み込んで行かなければならないと考えます。

この包装パラダイムを革新軸に、人に優しい包装、つまりユニバーサルなインテリジェント・パッケージングが求められている。さらには包装の基本機能として安全性・衛生性の確保、人の健康に対するリスク・ファクターの徹底的排除など多くの課題があります。

われわれは、永年にわたって蓄積してきた技術的知見をもとに、些かなりとも技術予測と課題の遂行に寄与していく努力を払うべきであろう。その活動の場が包装コンサルタント協会であることを望んでおります。

会員各位が、それぞれに問題提起をし、話題提供することで議論を交わすことが相互の交流を深め、専門家としての情熱を何時までも保てる源になろうと思っております。

技術フォーラムの開催も目的の一つですが、専門図書編集もできたら進めてみたいと思っております。また海外交流の話もでてきておりますので、これらの活動を地道に進めて行くことが、これからの包装コンサルタント協会存続のメルクマールとしたいと思っております。

会員各位のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

本部活動状況報告

事務局

1. 概況

平成12年5月25日に開催された第15回定時総会で平成12年度事業計画・予算・新役員等が承認され、今年度の活動を開始した。特に今年度は、濱口啓一氏が会長を退任され、新たに中山秀夫氏が会長に就任されたほか、役員陣容にも若干の変更があった。

2. 東京パック2000

平成12年10月3日～7日に開催された<東京パック2000>には、今回から関連4団体（当会・包装管理士会・包装専士会・技術士包装物流会）が協力して<包装と環境プラザ>の準備・運営に当たり、そこに設けられた<Q&Aコーナー>には当会会員にもご協力をいただいた。

3. 会員名簿作成

東京パック2000の開催にあわせて、協会案内・会員名簿を作成し会員に配布した。
なお、東京パックの〈包装と環境プラザ〉に置いて、希望者に配布した。
今回の会員名簿には、これまでの専門分野・電話/FAXに住所並びにe-mailアドレスを付け加えて本格印刷とした。

4. 〈新世紀の包装フォーラム〉の企画・開催

平成13年2月2日、横山理雄氏（神奈川大学理学部講師）、堀江正一氏（埼玉県衛生研究所・食品化学科長）、大須賀弘氏（ニッポーパック・茨城工場長）の三氏を講師に招いて〈北とびあ〉で開催した。参加者は当協会会員も含めて40名。目標人数60名は達成できなかったが、まずまずの結果であった。

5. 当面の協会行事予定について

1) 研究懇話会

日時：平成13年3月15日 15:00～17:00

場所：十四期倶楽部（スカイピアビル・4階）

（所在地は2月末に連絡済みの案内略図をご参照ください）

演者：飯島林藤氏〈容器包装リサイクルの現状と問題点〉

2) 第16回総会

日時：平成13年4月24日（火） 15:00～17:00

場所：中央区銀座区民館

なお、総会終了後に懇親会を予定しております。

関西支部活動状況

1. 平成11年度関西支部総会を開催。（平成12年4月4日）

2. 例会・研究会

- ① 第85回 00/4月 4日 99日本パッケージコンテスト入賞事例の解説
講師：有光 茂 氏
- ② 第86回 6月 6日 「南ア花観察の旅から」講師：真多 博志 氏
- ③ 第87回 10月 20日 「地球環境と廃棄物関連のドイツ事情について」
講師：真多 博志 氏
- ④ 第88回 12月 7日 世界の食品衛生21展とA-PACKに相談所開設を決定。KPI会員フォーラム「容器包装の識別表示の進め方」に出席した真多博志氏から概要説明があった
- ⑤ 第89回 01/2月 14日 「コンサルタント業務について」講師：太田 茂 氏
太田茂氏の紹介。例会のあり方、休会の扱い方等を協議

3. 研修懇親会

10月20日～21日 奈良「大和路」に於て実施。講師：宮田 豊 氏から日本の印刷技術について、新2千円紙幣を事例にした興味ある解説を聞く事ができた。翌日は新しく発見された猿石の「酒船石遺跡」現場を見学、国立飛鳥資料館・飛鳥寺に足を運び、秋の明日香路を散策した

4. 技術相談室

4月20日～22日、インテックス大阪で開催の第3回世界の食品衛生21展（日本工業新聞社主催）に無料技術相談室を開設、多数の相談があり支部の存在をアピールした。

新年会に思う

有光 茂

2000年の年始め、東京會館の包装界合同新年会に13年振りで出席しました。また、本年は東京・関西の両新年会にも出席しました。特に、東京は久しぶりのことでした。

古くは、狭い場所の中でお互いに体が当たり合いながら挨拶する状況であったが、このころは広い場所で約700～800人がゆっくり話し合う風景が先ず、目に入りました。そして、古くは各グループ毎の旗印のもとに集まり、簡単に挨拶ができたが、この頃はその目印がなく参々伍々に集まっている状況で、探したい人を見当てるのに一苦労しました。

勿論、JPCAも桑大先輩を始め中山会長以下、皆様にお目に掛かり、また古くからのお付き合いのあった方々にお会い出来ました。特に、最近年賀状を失礼していた方々にもお会い出来てなつかしく思いました。殊に、このような多勢の集まりで、一堂に会しご挨拶が出来るのはなかなかチャンスありません。JPI始め運営の方々に厚くお礼を申し上げます。

然し、13年振りとはいえ、やはり長い時が流れ、会場には新しい人が多く、古くからの包装屋がひと握りになったように感ぜられたのは淋しい限りでした。特に、包装機械出身の私として、この分野の方が見当たらず、過去の展示会に端を発する日本包装機械工業会と日本包装技術協会が分れたことを思い起こしました。

このことは、機械工業会が包装機械中心のJAPAN PACKとなり、技術協会が包材・技術中心のTOKYO PACKになり隔年開催と言うことになっている。最近の両展示会を見ても、互いに良い特色を生かした展示会に発展してきており同慶の至りに存じます。特に、新しい開発品は時間的に2ヶ年位の余裕が必要で、その間に知恵を絞って開発・出展して見学者・お客様のご意見を頂き、次の開発ステップに進むことが通例でした。世界の他の展示会には見られない、互いに特色を出した良い点になったと私は思います。

ところが、先の両会が分かれた時、機械工業会の常任理事会社はTOKYO PACKには出品しない申し合わせが、今も生きているのか、包装機械メーカーのトップ会社がTOKYO PACKの展示コマを設けてないことは誠に淋しい思いがする。唯、毎年の出品になるので内容的には検討の必要があると思う。然し、世の中ではお互いにコンペジターである大企業、例えば銀行・商社・造船などが大合同・合併の潮流に乗った動きになっているのが現状です。

また、時の流れと共に、人的にも経営者の世代交代が進みつつあります。この大変革が世界的にも進んでいるとき 出品しないという申し合わせを解消して包装業界の大合同が行われることが望ましいと一人頭の中で考えていた次第です。そして、先ず第一歩として機械工業会と包装技術協会がメーカーとユーザーの関係を維持して包装の新年会ぐらい合同でやれないか、私一人の戯言として思っている次第で、此の思いが大海に投じた一石にもなれば幸いと思います。

1998年10月に、JPCA会員に入れて頂き、2年半が過ぎようとしています。昭和36年、東洋製罐に入社し、定年まで、主に容器開発の仕事を行ってきました。私の自己紹介は、私が会社勤務の時、経験した仕事の内容を説明をすることで自己紹介にかえさせていただきますと思います。

レトルトパウチの開発では色々な問題に直面しました。①パウチに使用する基材（PET、AL、HDPEフィルム、CPPフィルム）副材料（インキ、接着剤）は121℃のスチーム殺菌に耐え、しかもFDAに適合した材料選定 ②レトルト殺菌は加圧加熱殺菌が出来るレトルト釜 ③充填シール機はシール面に内容物の汁が付着しても密封保障の出来るシール方式 ④缶詰と同じ長期保存ができることを証明する検査方法 ⑤流通に耐えうる包装形態が必要でした。⑥レトルト食品として認知してもらうための法律の制定問題解決のため、材料、機械、食品、政府関係機関、の方々と協力して、現在のレトルト食品が出来たものです。

次いで手がけたのが、酸素バリアーの有する多層シートから、熱成形で作るトレイでした。電子レンジの普及と共に電子レンジにかかり、手で容易に開封できる容器が求められるようになりました。レトルトパウチはフレキシブルなためレトルト殺菌中、加圧オーバーしても変形が分かりません。トレイの場合、色々な原因で変形がおこります。

①レトルト殺菌中に加圧オーバーになった時 ②ホットパックによる減圧変形 ③容器の偏肉 ④蓋材の収縮による場合 ⑤容器形状が変形を吸収が出来ないような形状

このようにトレイのレトルト殺菌では、より正確なレトルト釜内圧力と容器内圧力の制御が要求されます。

最近では、容器の外からバリアー（酸素、炭酸ガス、水分）するだけでなく、容器自身が酸素や炭酸ガスや水分を吸収機能をもった容器が要求されるようになりました。酸素吸収剤や乾燥剤を別添付されたものでは、間違えて食べてしまう危険があるからです。私は全てに精通している訳ではありませんが、材料選定、容器設計、容器製造、容器評価、充填シール、殺菌、流通包装と一通りは仕事を通じて経験しました。ただし、機械設備、電気関係、食品加工、細菌技術は私の不得意な分野です。JPCA会員のメンバーには色々な専門分野の方が多いため、自分を知ってもらうためにも、話し合ったり、連絡し合ったり、時にはお酒を飲みながら雑談することも重要なことと思います。最近はEmail等で、気軽に連絡したり、インターネットを利用し、情報入手が簡単になりました。このような状況下で、自分のレベルアップ、JPCAをさらに発展させ、コンサルタントを必要とされている会社いかに適切なサービスができるか等、考えるべきことも多々と思います。会社定年後、第二の人生を送っていますが、これからの自分の有り様などを考えながら、仕事、趣味、家族・友人などを考えたと思います。私の趣味は一向に強くなる囲碁、園芸、野球観戦（横浜ベイスターズ：アンチ巨人です）、マラソンをテレビで見ること。Emailアドレスは nabekura@esaeng.co.kr です。ご連絡をお待ちしています。

このたび、伝統あるJPCAに濱口前会長のご紹介により入会させて頂きました。浅学非才の身であります但しくお願い致します。

昨年、(株)興人を退任するまでの約40年間、某レジンメーカーの研究所勤務及び(株)興人勤務を通して、プラスチック関係の業務に主に携わってまいりました。研究、開発、製造等々各部署での経験をしてまいりましたが、中でも研究、開発がもっとも長期間携わりました。これまでの業務の中で主なものは下記の通りです。

- ①リニア低密度PEの収縮フィルム(単層、多層)の開発、事業化
- ②シュリンクストレッチフィルムの開発、事業化
- ③PVDCコートナイロンフィルムの開発事業化
- ④タバコ包装用PVDCコートOPPフィルムの開発、事業化
- ⑤PPフラットヤーンの開発、事業化

(株)興人は、独自で開発したチューブ状二軸延伸技術の展開として、ナイロンフィルム、PPの収縮フィルム、またセロハン等を生産販売しておりましたが、品揃えとして、上記各種フィルムを企業化する業務を担当致しました。その他一軸収縮フィルム、透湿防水フィルム等の開発も携わっております。また、管理業務として製造、品質保証等も経験しております。

プラスチック製品は人間生活の利便性を高め、現在では必要欠くべからざるものになっておりますが、一方では、現在の大量生産、大量消費、大量廃棄のシステムに伴い様々な環境問題に直面しております。廃棄物処分場の逼迫、ダイオキシン問題などが大きな社会問題になっております。、廃棄物の減量、省資源等を目的として、循環型社会の形成を目指し各種リサイクル法が制定されておりますことをご周知の通りであります。

包装業界を取り巻く環境はますます厳しくなっております。素材、包装技法の進歩は著しいものがありますが、従来の材料の機能、経済性重視の観点ではなく、容器リサイクル法、PL法等を設計段階から考慮しておくことが必要となっております。

また、リサイクル法に基づく分別回収される量も種類も増加していくものと思われます。その回収されたプラスチックの再利用も循環型社会形成に向けての重要な課題になっていくものと考えられ、様々な試みがなされると思います。

私も、これまでの商品開発の経験が、循環型社会形成への課題の解決、また、ISO取得の支援等、少しでも皆様のお役に立つことが出来ないかと考えております。皆様方の暖かいご支援とご鞭撻をお願い致します。

「日々新たなり」を念頭に信頼されるコンサルタントを目指して

小山武夫

21世紀に入った節目の年、皆様の仲間入りが出来ましたことを大変喜んでおります。私は昨年初に長年勤めた会社を退職し、自適の身になりました。幸い、在職の最後に中小企業診断士の資格を取得しましたので、昨年は診断士初年兵として充実した日々が送れました。また、技術士に挑戦し、経営工学部門（包装及び物流）で運良く合格、今年からここでも皆様の仲間入りが出来ました。

私は石油化学会社に1963年入社、高度成長に乗じて種々な仕事と経験をさせてもらいました。会社生活の初期は、研究開発でケミカルのプロセス開発が主体でした。中期は生産管理、品質管理の工場管理部門です。後期は石油化学の研究所長を経て、最後はC P P製造会社の社長を7年努めました。それぞれの期間が三分の一づつになります。

私の包装業界との出会いは後期に樹脂の加工に携り、包装用フィルムを企画検討した時に始まります。C P P製造会社では多くのコンバーターと付き合い、軟包装業界の厳しさを身にしみて痛感しました。環境の変化、競争の激しさのなかで企業として生き抜いていくのは容易なことではありません。私は中小企業診断士の研究会で2、3度この業界の問題点を報告しましたが、厳しいという認識はしてもらえましたが、業界の活性化に向けての目新しい意見は出ませんでした。皆様と協力して活力ある業界へ向けて新しい提案ができ、多少でもこの業界の力になればと思っています。

私は軟包装業界の現状の課題と改善の方向を以下のように考えています。

1. 設備の近代化と高度化により設備投資の負担が増大

食品包装用製造工場としてクリーン化が必要になり、設備の新設・増設が不可欠になった。その際、各社が生産能力を倍増し、設備過剰による過当競争が激化した。

2. デジタル化の進展は、多種少量生産、即納を加速した。コンピュータによる電送・画像処理設備と共に自動製版設備など新たな設備と人材が必要になった。

3. 多種少量生産、即納により物流コストが増加し、流通の効率化が必要になった。

4. 環境問題で容器包装リサイクル法の完全実施などにより、廃棄物処理などの環境関連コスト負担が増大した。

包装材は廃棄されるものが多く、付加価値を高め難いのが現状です。そのなかで、4つの課題を乗り越えるには、たゆまざるイノベーションが解決の道と考えています。

イノベーションには、新製品の開発、新サービスの開発、新生産方式、新販売方式、サービスの提供方式、新事業活動があります。中小企業においても、それぞれの企業に応じた課題解決への方法は見つけだせる、見つけだすのが私達の役目であると思います。

「日々新たなり」を念頭にして微力ながら皆様と前進していきたいと考えています。

皆様のご指導ご鞭撻をお願いいたします。

広報担当者からのお知らせとお願い

第82回役員会（12年6月23日）の議決事項

- 1、会の運営について、歴代会長には協力を要請する。
- 2、会員へのPRを積極的に行う。
- 3、役員の仕事分担

①飯田理事を副会長に互選

②役員全員で会の運営に当たるが、主たる仕事分担は次の通り。

総務（会計、名簿管理など）	本石、池田
業務幹旋	池田、飯田
広報（会報、「JPCAだより」、等）	中山、池田、菱沼、鹿毛
事業（セミナー、研究懇談会、等）	中山、横山、飯島、菱沼

これに対処し、先ず会員相互のコミュニケーションが大切であるので、本会報に毎回数名の方にご投稿をお願い致す事に致しました。それ故、今回ご投稿なされたかたは、次回ご投稿して頂く方をご指名して下さい。尚、ご指名に支障の有る方は当方（池田）迄ご連絡下さい。又、この様な消極的な方法でなく、積極的な御投稿を歓迎致しますので、宜しくお願い致します。

又、研究懇談会（隔月開催予定）は、上記の様に3月15日に飯島理事のご講演を予定していますが、今回以降のテーマは以下の通りです。

5月分 包装デザイン 演者 当会理事 横山 徳禎氏

この研究懇談会には、当会会員以外の方も参加して頂きたいので、PRを宜しくお願い致します。

編集後記

本会報No. 13（H7年8月）に当会初代会長の桑先生が、当協会の設立に関して、「JPCA生誕私記」と題してご執筆されておられる。その1部を引用させて頂くと、〔3）役に立つ協会に

言うならば、思いを同じくする文字通りの仲間同志で作り上げ発足した「日本包装コンサルタント協会」であったが、楠田氏（故JPI常務理事）の確固たる理念と、JPIの強力な支援のもとに、包装人の先達という自負と、後に続く包装人のための道作りをという責任感から、先ず、12月22日に第1回の理事会（と言っても全員）を開催、会員

と社会の役に立つ協会に育てるためには、何をなすべきかを討議し、先ずは「数は力なり」の会員増加の具体的な行動案、並びにこれからの行動目標のために、以下の諸項について会員分担での活動が始まった。」と書かれておられます。

私はこれを拝見して、「歴史は繰り返す」と感嘆すると共に此の設立総会が昭和53年（1983年）11月1日なので、この諸先輩が苦勞して築き上げた伝統ある協会を何とか維持・発展出来ないかと思案してます。JPCAの存在意義は、会員各位の相互交流と情報交換を活発に行い、日本の包装産業の発展に寄与すると共に、会員の地位向上と利益確保に役立つものでなければ成らない、と考えます。しかし現状はこの機能を果たしているとは言えません。

此の現実に関して、私共役員も大いに反省し現状打破を試みております。そして私の心境としては、先ず初心に戻り、「継続は力なり」を信じ、先達の努力を無駄にしない様に会員が一体となって、包装の動向や社会の要望に対し、協会の考え、姿勢、取り組みを明確にし、問題提起と解決の提言を果敢に業界に発信し、当協会が外部に理解される様な行動を起こす事だと考えます。そんな事もあり、今度新会員になって頂いた方々には、特別にお願いして、御職歴とお考えを1ページに纏めて頂きました。お3人共希有のご経験と積極的なお考えをお持ちであり、此の様な立派な方々を同志としてお迎え出来た事は同慶の至りです。これから私共は協力して、当協会が業界に評価される様に努力すれば、当協会の存在感が高まり、会員各位の意気も更に向上し、地位向上、利益確保等の会員への的確なサービスも可能になるのではないかと考えます。

会員各位におかれましても、今後とも会の運営について一層のご尽力、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

末筆で申し訳ございませんが、編集者の不慣れからこの会報の発行が遅れた事をお詫び致します。実は、会報の編集は初体験なのです。何かとご不満の事もお有りでしょうが、ご容赦下さい。又、お気付きの事がありましたら、何なりと下記にお知らせ下さい。宜しくお願い致します。

以上

連絡先 Te l・FAX; 0492-62-3751

e-mail; ikeda.gijyutusi@nifty.com 池田技術士事務所